

がんばろう 南三陸町 復興第42号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所 千葉総合印刷株式会社 本吉郡南三陸町志津川字沼田150-84 TEL(46)3069 FAX(46)3068 志津川広報センター 企画・編集 千葉伸孝

防災対策庁舎の動き(6月)⑧

●南三陸町では町民意見(パブリックコメント)をHPで公開している。町民の寄せた計558件を掲載している。 ●南三陸町議会の「震災対策特別委員会」が15日に開催された。「議論をする時間を」と請願書を出し、及川さんと他2名が議場に参考人として立ち、「デリケートな問題で、町全体で議論し、解体・保存の結論を出しても遅くない」と述べた。県有化受け入れを採択へ。請願賛成10、反対4で採択された。県有化による防災庁舎保存が後押しし、受け入れへの動きとなった。 ●南三陸町議会は「県有化の受け入れ」に対し特別委員会の報告通り合会一致で採択され、質疑や討論はなかった。 ●南三陸町の佐藤町長は26日に町職員の遺族と懇談した。町長は「解体すれば過去のものになる」と述べ、県有化に前向きな発言を示した。遺族

会の阿部会長と千葉副会長が歌津支所での「移動町長室」で継続的な議論の場を要望した。

9月1日県有化の協定締結

協定は①建物は県が町から無償で譲り受け、敷地は無償で使用する。②平成43年3月10日までに県は庁舎と敷地を町に返還する。③劣化防止や安全確保のための修理、補強経費は県が負担する。④献花台や慰霊のための施設は町が維持管理する...ことなど7項目の合意事項を盛り込んだ。 一時県有化は、保存の是非を一定期間議論し、結論を出す措置は、町民とオープンに議論できる場をどうするかをこれから考えると、終了後に語った。

日本習字志津川支部(小山教室)

8月1日に京都審査会

指導者小山光夫先生は剣道教士七段で、中学校でも指導し、志津川剣道協会の会長も務めている。

審査会結果

Table with 2 columns: School/Year and Award. Includes 戸倉小学校 and 須藤さんからのシンガポールの絵はがき.

Table with 2 columns: School/Year and Award. Lists results for 志津川中学校 and 志津川高校.

電話予約承っております やきとり なっちゃん (コメリ様となり) TEL 090-6257-3315 ※営業時間 PM2:30~7:30頃まで 定休日:日曜日、他臨時休業あり

0220-23-2455 佐栄置商工 (インテリアみやび) ●プチリホーム ●セット割引有 ●南三陸町プレミアム商品券使えます

第35回気仙沼本吉地方 スポーツ少年団種目別剣道大会

日時:平成27年8月30日(日) 会場:気仙沼市総合体育館 参加チーム 小学生団体9チーム 中学生団体5チーム 参加人数約80名



本吉・気仙沼種目別スポ少剣道大会に、選手・父兄・関係者150名が集まった。

本吉郡からは歌津地区の道合剣道と雄飛剣道会、志津川剣道スポ少は唐桑剣道とチームを組ませてもらい、志津川・唐桑チームとして交流を深める事ができた。何処の子供達も同じで、父兄・親の会に礼儀を尽くす姿がそこにあった。 気仙沼・本吉のスポ少の吉田会長は「お父さんお母さんに先生に、カッコイイ所を見せて下さい。気仙沼・本吉地区で団結して頑張りましょう」と挨拶を述べた。

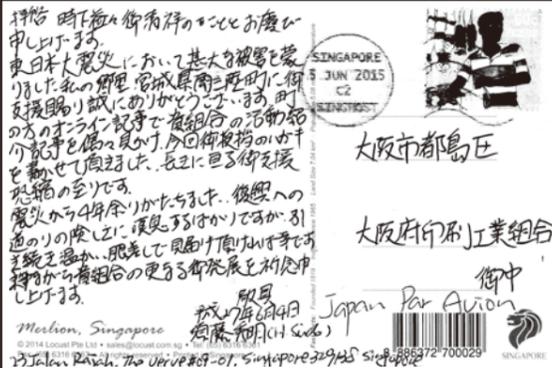
- 小学生団体 優勝 南気仙沼少年剣道会A 準優勝 鹿折剣道会A 第3位 雄飛剣道会A 第3位 唐桑町剣道会A 中学生団体 優勝 道合剣道会A 準優勝 道合・雄飛混合 第3位 志津川剣道会A 第3位 南少剣・鹿折混合 小学生個人戦 低学年の部 優勝 島山沙羅(鹿折剣) 準優勝 佐藤来夏(南少剣) 第3位 佐藤千風(南少剣) 第3位 島山興斗(道合剣) 小学生個人戦 高学年の部 優勝 熊谷美鈴(唐桑剣) 準優勝 佐藤楓華(鹿折剣) 第3位 小野寺皇介(唐桑剣) 第3位 佐藤隼(南少剣) 中学生個人戦 女子の部 優勝 阿部咲来(南少剣) 準優勝 千葉莉央奈(道合剣) 第3位 山内杏里(志津川剣) 第3位 三浦愛海(雄飛剣) 中学生個人戦 男子の部 優勝 千葉響稀(道合剣) 準優勝 千葉聖音(道合剣) 第3位 阿部聖哉(道合剣) 第3位 三浦拓斗(道合剣)

千葉印刷 TEL 0226(46)3069 住所移転・喪中ハガキ承ります



須藤さんからのシンガポールの絵はがき 被災地への「支援の環」が更なる交流へ Merlion, Singapore A lovely view of the iconic Merlion with the Marina Bay Sands as backdrop.

いものの、更なる人とのつながりへとつながった事が最近わかった。南三陸町志津川出身の須藤さんが会社のブログから情報を収集し、東大阪印刷支部さんに支援の御礼状を送っていた。「こんな手紙が組合にきました。」と手渡されたのが掲載の葉書きです。偶然にも我が社の社長の友人の大森の須藤さんの息子さんということがわかった。「今、シンガポールの会社に勤務しています。」との話だった。



その後に長野県飯島町の宮澤さんが、仮設の皆さんにとジャガイモの物資を送ってくれた折りに、「シンガポールから絵はがきが届きました。」と聴かされた。そして「南三陸町の方へ飯島町の採りたての野菜を送りました。」と話され、今度は南三陸町から蒸しホヤが贈られてきましたと、ほのぼのとした交流話を聞いた。

私と会社の活動のつながりが南三陸の住民の新たなつながりの絆が生まれ、これからの南三陸町の復興の架け橋となり、新しい町づくりの輪が広がっていく。一人一人の活動が小さいながらも、その数を増す事で町の再建が将来に向い確かなものに形づくられていく。会社の目標に「町の再建に寄与する」と、今後の活動を明記している。

千葉総合印刷の震災復興支援 2011.3.11の大震災から、被災地の現状をブログで発信し続け4年半を迎えた。23年7月から戸倉荒町で仮営業を始め、震災2年1ヵ月で志津川地区の商工団地内に会社を縮小し、新たな環境で営業を再開した。 南三陸町への全国からの支援や、講演活動も多く依頼により沢山の団体と交流が生まれた。京都の大学の募金活動の地元団体への中や、「南三陸町からの手紙プロジェクト」の参加は、会社にとっての被災後の会社の仕事として明るい希望の光となり、現在も被災地支援の風化はあるものの、大震災の恐さと大災害に対する考え方や生き方の「防災教本」として今も、少しの需要を維持している。 長野県飯島町のマジッククラブや大阪府印刷工業組合東大阪支部の南三陸町への物資の提供や仮設慰問があり、それが観光支援とつながり、町の商品購入は町の商店の活性化を生んでいる。3年以上も続く支援の輪は人と人が互いの名産品を贈り合う関係を作り出し、関係団体のイベント商品には「南三陸町の贈り物」として喜ばれた。 我が社の活動は大きな形として目には表れない

未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成27年(2015年)

6月の出来事

～ 地元報道より～

◆気仙沼市のふるさと納税が2ヶ月で前年度の半分に達した。5月11日現在で1005件・1383万円となった。(前年度実績は2050件・5746万円)。増額の理由に謝礼の品を増やして、ふるさと納税専用サイトに参加した事が挙げられる。

ファッションデザイナーの芦田さん(東京)が被災地支援で25年から企画し、仮設で暮らす30代～40代の女性に手作り小物を制作してもらい、これまで2500個を販売している。「ミナ・タンチャーム」のブランドとして、国内の大手百貨店やフランス・パリなどで販売し、価格は1体13000円～18000円。南三陸町の女性の雇用に貢献している。

◆気仙沼市26年度市税が約57億3千万円と前年を2億7千万円上回った。

◆気仙沼市のゴールデンウィーク(4月25日～5月6日)には15万人の入込み数が前年より大幅に増加した。「モーランド本吉」は1万5600人と昨年を6千人上回り、「海の市」は2万6400人と昨年の4倍に達した。

◆気仙沼市は医療費助成で中学生まで窓口負担ゼロにした。

◆気仙沼市の5月の出生数が初の10人台となった。旧本吉町との合併した21年9月以来の10人台となり、前月末より49人減った。人口減は49人で世帯は21増加した。被災地の状況として人口が減っても世帯が増える。被災地における諸々の実態が伺える。

南三陸・気仙沼の県北漁場のマボヤの出荷自粛が1カ月も続いている。県北海域にあたる漁場でのマボヤの下痢性貝毒の発生で、要観察時期(イエローライン)が判定され、漁業者に焦りや不安がつのっている。

◎気仙沼線の沿岸自治体とJRは、国土交通省からの国費負担は「難しい」との回答に鉄道の復旧は厳しくなった。

◇町立南三陸病院(3階建)が10月の完成に向け、順調に工事が進み、総合ケアセンターの併設など、引っ越しの準備も着々と進んでいる。

◇気仙沼・本吉地区の農家では、今期の高温少雨による露地野菜栽培で悲鳴を上げている。アスパラガスなどは平年の3分の1となっている。

◆ハローワーク気仙沼は地域の高校生の就職率が「100%」と順調な推移を見せる。被災地の人手不足を背景に若い戦力でカバーし、事業所再建が進み売り手市場となっている。

◆気仙沼尾崎地区の「防災公園」の計画図が住民に示された。尾崎漁港に近い2.9haの敷地に運動用と緑地用を整備し、野球やサッカー場を設置する。また、漁港に近い場所に避難築山を6mで整備し、津波で逃げおくれた人の避難所を確保する。

南三陸プレミアム4割増し商品券が7日から販売され、初日はベイサイドアリーナのみで午前9時からの販売に1時間半前から町民が行列を作った。予算は国の地方創生先行型交付金を活用し、町から3,980万円が予算化され財源とした。500円券は1セット7,000円で3千冊、1,000円券は1セット14,000円で5千セットを用意し、11日には町内各所で、14日は登米市南方仮設で販売された。

◇歌津地区柘沢団地現地見学会が7日に開催され、入居予定者60人が子供連れで集まった。柘沢団地は当初59戸の予定だったが、自己再建などが進み、6区画を減らし53戸を整備し、進捗率は66%となった。歌津中上団地も同様の理由から56戸から51戸へ縮小した。

◎長嶋忠美復興副大臣と県内被災首長との意見交換会の席上、気仙沼市長と南三陸町長は新規防潮

堤整備の全額国費でと求めた。国の一部地元負担との提案の打消を村井知事と共に要望した。

◇南三陸町「春季消防演習」が、町内の各分団から450人、消防署員25人の475人が集まり実施された。(7日)

南三陸町と気仙沼市の出生率(千人当たりの出生)が県平均下回る。26年人口の動態が発表され、気仙沼市は5.68で13の市の中で下から3番目となり、南三陸町の4.38は町村の中で七ヶ宿町(3.17)について下から2番目だった。昨年は出生数が62人となり、163人が死亡だった。結婚は49組で離婚は25組、昨年より11組増えた。

◇南三陸町は「緑豊かで活力あるふるさと創生事業」として、町内で農業体験や緑地化活動を行う団体に、1団体50万円を上限に補助金を支給する。希望する団体を呼び掛けている。

南三陸町の5月末の人口が1万4千人を切り、1万3,990人となった。この1年で見ると80世帯451人が減った。

◇南三陸町の志津川・歌津地区の新商店街の施設出店数が決まった。志津川が31店と歌津地区8店で合計39店舗となり、28年の10月完成へ事業を進めている。賃料などの折合金や、再建意向の変化により3割が減少した。

◇県北漁場のマボヤの出荷自粛が10日に解除となり、生産者は安堵している。

◇観光庁の久保長官が南三陸町を視察した。ホテル観光の「語り部」の案内により、戸倉中学校や高野会館、震災遺構として注目されている防災庁舎を視察し、震災3県のホテル・旅館のおかみとも意見交換をした。

◆気仙沼市大谷海岸の「道の駅」の売り上げが水産物の復活にともない、震災前の半分まで回復した。

◆気仙沼市内老人クラブ対象者が増えているのに、会員がピークの3割にとどまっている。背景には大震災により価値観や環境の変化によるものと見られる。

◇志津川高校の高野さんと久保さんが、第62回全国高校球算・卓球競技大会の県予選で上位入賞し、全国の高校一を目指し出場する。

◇南三陸町は子育て世代の負担軽減策として、10月から18歳までの医療費の窓口負担をゼロとする。これまでの15歳までから、16～18歳までの対象443人として1人当たり2万1千円として1千万円を予算計上する。

◆気仙沼市の災害公営住宅整備で、18地区24カ所で事業の見直しなど、完成が1カ月から最大で10カ月も入居が遅れる。

◇歌津地区の郵便局が津波流出により、地区に郵便局がなくなっていた。この度15日から伊里前復幸商店街に、歌津局の専用車両が設置され、歌津地区でATMが利用できるようになった。

◆気仙沼市は被災地固定資産税を本年度は市独自で「1億7千万円」を減免する。震災による特例として、土地1万4383筆と家屋2641棟の固定資産税を減額した。国の制度が廃止となり復興状況に合わせて、全額免除や2分の1減額を市独自で実施する。

◇南三陸町は歌津中学校裏山に、年度内に伊里前保育所と親子のふれあい、研修スペースを一体とした。子育て支援拠点施設を整備する。

◇南三陸町野球協会は志津川高校野球部に、ボール3ダースを寄贈した。「志津川高校旋風を再び」と活躍を願った(12日)

◇南三陸町議会の6月定例会で行政報告があり、JR気仙沼線の復旧見通しが正された。JRでの再度レールを走らせるのは冒険で、国も財源を一切ださないなかで、鉄路復旧は現実的ではないと町長は述べた。

◇戸倉地区の被災した旧戸倉中学校は利活用の要望があり、27年に着工し28年の7月の完成を目指し、志津川地区の公民館は中央区に整備を考案造成完了後29年度の完成を目指す。

◎JR気仙沼のBRTの運用を27日から前谷地まで運行を延長し、南三陸町ベイサイドアリーナ

までの停車を増やす。

◆岩手県平泉町は「世界遺産登録の恩返し」にと、気仙沼市の大谷・鹿折・陸前高田市の玉山の「3金山」を紹介するパンフレットを作成した。

◆気仙沼・本吉地方の被災企業は高齢化などで28%が廃業し、再建を進めた企業が66%にとどまっていると県がまとめた。

◆気仙沼市の一般会計で、本年度は事業の約185億円を事故繰り越しで、大半は水産施設補助金の予算とみられる。

気仙沼市小泉地区に大型トマト栽培施設「サンフレッシュ小泉農園」の建設が進んでいる。小泉明戸地内の4haに総工費9億円の鉄骨施設(幅50m×長さ100m)で国の補助金を活用し、大手メーカー井関農機が進めている。大玉トマトの苗4万5千株を定植し、パート従業員など30人を雇用する。8月からの定植で、10月の初収穫を目指す。

◇日本サッカー代表の長谷部誠選手(ドイツ・フランクフルト)が、17日にあさひ幼稚園(志津川)の園児とサッカーを通して交流を深めた。今回で5回目となり、ワールドカップサッカー予選リーグの試合後に駆け付けた。

◇新規防潮堤整備の地元負担が軽減され、全額が国費整備での継続が決まった。自治体負担は2.25～2.5で、南三陸町は10漁港20億円が5千万円の負担となり、気仙沼市は21漁港305億円のうち7億5千万円の負担となった。

◇南三陸町の歌津魚竜化石の保管を一時仮収蔵を、入谷への町の建設工事に対し、なぜ歌津に整備しないのかの異論が噴出し、そのまま議会が散会となった。19日議会最終日に、町からの歌津吉野沢地区との修正案にも、産出地に近い場所への見直しを求めた。

◇南三陸町4割増しプレミアム商品券が8日で完売した。

◇県議選の日程が決定し、10月16日告示。25日投票が決まった。気仙沼・本吉選挙区では3名の定員に現職3人と新人1人が出馬を予定している。

南三陸町に高齢者の生きがいづくりの場として、趣味・技術取得に活用する施設「晴谷驛(ハレバレー)」が完成し、7月1日に披露会が予定されている。入谷鏡石の国道398号沿いに町民有志がNPOピースウィンズジャパンの支援を受け建設した。解散したシルバー人材センターの元会員が中心となり、元会員のサークル「いぶし銀倶楽部」が陶芸・習字・墓地清掃や地域ガイドといった活動をしている。施設運営は「びば!南三陸」の鈴木代表が務め、高齢者の学びの場として気軽に立ち寄りやすいと話す。鈴木氏は震災前までシルバー人材センターに事務職として関わっていた。

◇南三陸町で民間医療へり団体の研究会が南三陸プラザで20日間開催され、在り方や課題を探った。

南三陸町の八幡川に架かる「港橋」のデザインコンペに国内外から215点の応募があり、1次審査で5点が最終審査に進んだ。7月19日のアリーナでの最終審査は公開で行われた。賞金は100万円となっている。

◇JA南三陸の本店・志津川支店の工事が22日完了した。これで管内の被災した6店舗が全て復旧した。29日にはオープンセレモニーが開催され、新しいスタートを切る。

◇南三陸町は合併10周年にあたる10月1日のアピールとして、垂幕やのぼり旗を設置した。内外への10周年のPRで震災支援に対する感謝と、復興への心意気を示す機会と考えた。

◇南三陸町の12回目の復興交付金で22事業に満額配分となった。県実施の国道398号の戸倉波伝谷の道路整備に5億2800万円、志津川東地区の西工区の「福祉モール事業」に860万円も盛り込まれた。

◇志津川中央区に「新学校給食センター」の計画。◆気仙沼コンベンション協会と本吉観光協会が来年4月の合併に向けて協議会を設置。観光振興に向け一丸となり結束を進める。